

自由記述から見る，だれがなぜ改憲に賛成・反対しているのか

——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究 (3)——

立命館大学 樋口耕一

1 目的

本報告の目的は，質問紙調査において人々が自分の言葉を書き込んだ自由記述の分析を通じて，「だれがなぜ改憲に賛成・反対しているのか」という問いに従来よりも明瞭に答えることである。この試みには第一に，研究者・政治家・ジャーナリスト等の立場を問わず，改憲の議論を行う際にふまえておくべき基礎を提供する点で，意義があると考えられる。最終的に改憲のゆくえを決めるのは国民投票であるから，世論を無視した議論は空論となりかねない。議論の基礎として世論・一般有権者の動向を把握しておく必要があるだろう（境家 2017）。第二に，メディア利用によって政治的態度が形成されるプロセスを詳しく探索できる点でも，自由記述の分析には意義があると考えられる。憲法問題は，日常生活における経験からは情報を入手しにくい間接経験争点であるため，直接経験争点よりも，メディア接触の影響が大きいとされる（稲増 2015）。そして，各種メディアの中でもとくにネットを信頼している層では，改憲に賛成する人が多い（政木・荒牧 2017）。それでは，ネットに溢れるさまざまな言葉の中で，どの言葉が「刺さった」ことで，改憲賛否の態度が影響を受けたのだろうか。

2 方法

「情報行動と政治・社会意識に関するウェブ調査」（2018年11月実施，有効回答5181件，科研費18H00926）における，改憲賛否の設問と，「憲法改正について、どのようなことを感じたり思われたり」するかをたずねた自由記述を中心に分析した。選択肢型の設問を使った共分散構造分析には mplus を，自由記述の計量テキスト分析には KH Coder を用いた。

3 結果

第一に共分散構造分析から，5chまとめサイト，国際・海外ニュース，読売新聞サイト，産経新聞サイトなどの右派ネットメディアを閲覧する人ほど，改憲に賛成する傾向が確認された。なお性別・学歴等の社会的属性よりも，右派ネットメディア利用の方が，改憲賛否との関連が強かった。第二に自由記述を見ると，改憲賛成の理由としては時代の変化に合わせること，近隣国の脅威から日本を守ること，自衛隊を認めること，戦後アメリカに押しつけられたことなどが多く見られた。一方で反対の理由としては，戦争放棄を維持すること，政治家や政府が勝手に進めることへの不安，メリットがわかりにくいことなどが多かった。そして右派ネットメディア利用者は賛成の理由として，近隣国の脅威から日本を守ることや自衛隊を挙げる傾向があった。

4 結論

とくに興味深い結果として，右派ネットメディアを頻繁に利用する層には，外敵の脅威から日本を守るという理由で，改憲に賛成する傾向が見られた。ネット右翼と呼ばれる人々の数は少ないとされているが，一定数のシンパと，無視できない影響力を持つ可能性がうかがわれる。

文献

稲増一憲，2015，『政治を語るフレーム——乖離する有権者，政治家，メディア』東京大学出版会。

政木みき・荒牧央，2017，「憲法をめぐる意識の変化といま」『放送研究と調査』67(11): 2-27。

境家史郎，2017，『憲法と世論——戦後日本人は憲法とどう向き合ってきたのか』筑摩書房。